

せんだいスクール・オブ・デザイン

実施機関：東北大学（総括責任者：里見 進）

実施期間：平成 22～26 年度

プロジェクトの概要

この取組では、地域に隠れた価値を新たな角度から発掘し、クリエイティブ・クラスタとの共同プロジェクトを通じて、その価値を育て、地域の活性化を図りうるコラボレーティブなクリエイタおよびプロデューサを養成する。養成の対象となるのは、建築設計、アーバンデザイン、プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、映像、音楽、ICT システム開発者、各種先端テクノロジーに関わる独立系エンジニアなど、いわゆるクリエイタ及びそれらをめざす学生である。切実な地域の課題から起こしたプロジェクトに、業務経験を持つクリエイタと学術的知識をもった大学院生を混成チームとしてコミットさせ、プロジェクト・ベースド・ラーニングを通じて上記の目標を満たす人材を養成するプロジェクト駆動型デザイン教育を実施する。これらプロジェクトとあわせてクリエイタと地域企業、学生の活動交流拠点を整備し、多彩なワークショップで技術を鍛えるとともに交流を深め、出版やイベントで成果を広く共有する。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
S	s	a	a	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

所期に計画したカリキュラムに加えて、「アジャイル・リサーチ・プロジェクト (ARP)」という新規科目を設置し、震災後の諸問題に迅速に反応しうる枠組みを作るとともに、東北大学の災害科学国際研究所と協働し、復興過程におけるクリエイタの存在感を高めていることは高く評価できる。今後は、本取組で得られた成果を広く世界に発信することを期待する。

・**進捗状況**：東日本大震災により受講生募集ができなかった時期があったにもかかわらず、養成人数の目標を大きく上回り、着手したプロジェクトやワークショップも所期の計画以上に実施していることは高く評価できる。また、被災地としての地域ニーズに対応しながら人材育成を行っていることも高く評価できる。

・**人材養成手法の妥当性**：実践的なプロジェクト駆動型デザイン教育を実施していること、また環境変化に柔軟に対応することで「デザイン」が持つ力を発揮し、そのこと自体が質の高い教育につながっていることは評価できる。今後、プロジェクト駆動型デザイン教育をより地域特性に適合させながら実践することを期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：受講生の募集、各種イベントの告知・広報、及び研究成果の発表会の情報発信など、仙台市との緊密な連携が構築されていることは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：修了生が広範な領域で多彩に活躍し、各種の受賞に値する活動

につながっていることから、対象人材の選抜やカリキュラムの有効性は高く評価できる。さらに、同窓会「SSD+」の存在が修了生間のネットワークを強固なものにしており、各人の活躍が地域再生につながるものと評価できる。今後は、東北地域の復興デザイン等に向け、より多様な人材が参加できるよう枠組みを広げることを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：実施期間終了後、社会人教育にも門戸を開放した総合的なデザイン教育の拠点を形成する方向で検討されており、継続性を見通しはありと評価できる。当該地域の再生は、単なる地域振興にとどまらず、震災復興という、より広範囲の教育効果を求めていることから、今後は、当該地域のニーズを十分に把握し、具体的成果を創出することを期待する。